

きぶのさと

NO.102 月刊

○ 三十番神社 (その二)

すべし各地にある番神というは、三十番神、即ち三十柱の神を祭祀するものである。その起源を尋ねると天台宗の始祖傳教大師(最澄)の高弟で同宗を盛大にした慈覚大師(円仁)が比叡山で妙法経を修行した時、法華守護のために諸神が日々交替して楞岩の傍洞に神影をあらわしたので、この^欽向の神々を記して如法道場の日前に掲げたのが始まりといわれ、先づ天台宗がこの説を唱え、後ちに日蓮宗がこれに倣つて鎌倉として江戸初期からさかんに境内に祭るようになったのである。

神道では他國から犯されたいとして天長地久、國土安穩を守護し給うために八百萬神のなかから著名な神を三十選んで崇拝する習慣がある。また別に禁闕守護の神様として尊敬するもので、その神々と申すは

- 一、熱田大明神(尾張)「大日」二、諏訪大明神(信濃)「善賢」三、廣田大明神(摂津)「智至」四、氣北大明神(越前)「大日」五、氣多大明神(能登)「文珠」六、鹿島大明神(常陸)「十一面」七、北野天満宮(山城)「十一面」八、江文大明神(近江)「地藏」九、貴船大明神(山城)「不動」一〇、天照大神(伊勢)「大日」一一、八幡大明神(山城男山)「弥勒」一二、加茂大明神(山城愛宕)「釈迦」一三、松尾大明神(山城)「毘婆足佛」一四、大原大明神(山城)「弥勒」一五、春日大明神(大和)「釈迦」一六、平野大明神(同)「釈迦」一七、大比叡権現(近江)「釈迦」

一八、小比叡権現(近江)「薬師」一九、聖貞子権現(近江)「弥勒」二〇、客人権現(近江)「十一面」二一、八王子権現(近江)「千手」二二、稻荷大明神(山城)「如意輪」二三、住吉大明神(摂津)「虚空蔵」二四、祇園大明神(山城)「薬師」二五、赤山大明神(山城)「馬頭」二六、建部大明神(近江)「大日」二七、三上大明神(近江)「千手」二八、兵主大明神(近江)「文珠」二九、苗鹿大明神(近江)「地藏」三〇、吉備大明神(備中)「虚空蔵」。(拾遺抄の上部は所在地の國名、下部は本地聖迹説による^{ミカ}彌陀の尊名である) これは延久五年(一〇七三)に傳教大師、親良正といふ高僧の傳へたもので、大比叡、小比叡、聖貞子、客人、八王子は山王社に属し、建部、三上、兵主、苗鹿などの神はソフルも近江の國に鎮座し、比叡を中心としてあるので起源は天台宗から来していることが知られる。

この神々を日蓮宗では法華経の守護神として三十番の神名を一月三十日に配して毎日崇拜するのである。天長十年(八三三)慈覚大師の「番神縁起論」には古來天地四方の擁護の神としてゐる。そして東、西、南、北にそれぞれ八神あつてその方位を愛持つて守護するものであると説いてゐる。即ち

- 東宮八神は 歳星 角星 方星 房宿 氏宿 心宿 尾宿 箕宿
- 西宮八神は 大日 奎宿 婁宿 胃宿 昂宿 畢宿 觜宿 參宿
- 南宮八神は 螢宿 井宿 鬼宿 柳宿 星宿 張宿 翼宿 轸宿
- 北宮八神は 辰宿 斗宿 牛宿 女宿 虚宿 危宿 室宿 壁宿

の三十二神にして、これは深板とさかしてゐる。それ故にいつの時代から始まつたものかわからないが縁起をかつく葦屋 待合 芸妓屋 料理屋などの人気商売を営む接客相手

傳教大師 神社誌 第十三号
 昭和四十一年十二月一日 發行 (非売品)
 岡山県瀬野郡吉備町東町二五五号 地方電四三七番
 吉備親老 協会
 第 227 号

の弱、穰業者は左園にこの神を祭り、軒には「三十番神」と書いた御神灯を吊して、客足
をまつのである。(在頼の松林寺に應永以前のものと思われる円光園師、別峯光和尚の
筆になる三十番神があるが、傳教大師の三十番神と四ヶ所神名の異なる真があるものを
みたことがある。いまどうなっていることか。)

泉下で最も古く、三十番神堂は大和村(賀陽町)の具足山妙本寺にある。この妙本寺は弘
安四年(一一八一)に伊達禪正朝義の創設になるものである。朝義は元永八年に日蓮上
人が鎌倉松葉谷の法難の際に警固した武士であつたが、日蓮上人の靈威に感ぜし法華經
を信じ、後ちに身並山に上つて教義を受けた。当時日蓮信者は北條執權の迫害を受けて
いたゆゑその難に遭ひ、弘安四年左遷されて封を備中野山庄に移され、新地四千石を領した
。よつて野山の天和山の南麓に住居を構えた。領内にあつた天台宗の某寺を改宗して当
山を開創し法華弘法の道場にしたのである。その後永仁二年に日蓮上人が京都に布教せ
らるることを聞き、その臣横田権之進を派遣して十界の本尊と、三十番神を授與して帰
りにこに祭祀したのである。現在の鏡宇堂が昔そのまゝの御堂に建てられた建物は明應六年(一
四九七)神道長卜部兼俱の寄進にかかるといふので、いま重要文化財に指定されてゐる。

○ 天満宮

西花尾の正法寺の裏手にある。祭神はいうまでもなく学問の神とあがめ奉る菅原道真で
ある。南面する高さ二八五粒、一施主 惣氏子中と刻んである石華表を湛ると、西側
に豊島石造りの石灯笼がある。高さは二米ばかりその軸石に「惣氏子中奉建御空前」
寛政八丙戌(一七九六)八月廿九日とある。数段の石段をのぼると右側に「奉水」
文政五年壬(一八二二)の銘ある手水鉢がある。神門を潜ると周囲に八一〇粒、一九五

四粒の新レ、築泥埦をめぐらしてゐる。拝殿は白拝付に建て間口六〇〇、奥行三〇〇。
本瓦葺屋根にしてそれに長さ四〇〇、幅三一〇の幣殿を有してゐる。本殿は一六六、
四面の千本鏝本を有する流造トタン葺屋根である。これは敗戦後の昭和廿二年に甚だレ
く損傷したので物資の不足時代に緊急修理を施したものである。

拝殿に昭和三十五年四月、天神社改築寄進者の校額がかがげくある。惣氏子から六万
三千円を集めて崩れかかつてゐた周囲の築泥埦を修復したのである。

当社の創建は詳かではないが、社前の石灯笼に寛政八年とあるのがそれ以前であるこ
とは確実である。この宮は春秋二季の祭祀には神官を聘して行われ、いまでは
神佛混淆の習レに度つて正法寺の僧が社殿にカレこまりて読經を唱え神事を執行するこ
う。この天満宮は旧西花尾村の氏神であるが、近年敬神の念がうすうき奥谷講中では
祭りにも憚りをたてることをやめ、祈が昭和三十六年と同三十九年の二回に
節落のものが自動車事故で死したことがあつた。これは氏神を粗末したのが原因で節
落民に不幸がフブクのだ。という事になつて若い新思想をもつ人達を説いて旧來の傳
統を守り、もとの如く祭りには欠かさず敬意をたてることにしたという。

手水鉢の横に高さ一一九の石碑がある。表面に「風地保存碑」 篤志者名 都窪郡
撫川町大字新ヤシキ

- | | | | | | | | |
|---|------|----|-----|-----|---|----|-------|
| 一 | 金指五丙 | 太田 | 銀次郎 | 同 | 同 | 江尻 | 文助 |
| 一 | 金指五丙 | 多村 | 雄波 | 考四郎 | 同 | 同 | 水島清吾 |
| 一 | 金指五丙 | 同 | 江尻 | 定次郎 | 同 | 同 | 水島久馬男 |
| 一 | 同 | 同 | 吉井 | 照六郎 | 同 | 同 | 熊代多賀次 |
| 一 | 同 | 同 | 吉井 | 弥市 | 同 | 同 | 磯島坂太郎 |
| 一 | 金指四丙 | 同 | 赤木 | 喜太郎 | 同 | 同 | 磯島金吉 |

| | | | | | |
|------|----|-------|----|-------|------|
| 一金十円 | 当村 | 磯島仙吉 | 一、 | 榮起者 | 西組講中 |
| 一同 | 同 | 中田篤雄 | 一、 | 金五十七円 | 中組講中 |
| 一同 | 同 | 磯島勇治郎 | 一、 | 金五十三円 | 中組講中 |
| 一同 | 同 | 江尾梅吉 | 一、 | 金五十二円 | 奥谷講中 |
| 一同 | 同 | ← | 一、 | 金四十一円 | 龍谷講中 |

裏面に 大正八年五月建立
 帰米者 莊路人
 大田 元造
 中谷 喜八
 磯島 利吉
 近藤 政次
 大田 兵吉
 雄波 春三郎
 熊代 弥九郎
 吉井 共平

委員
 水島 牛代次
 雄波 敬雄
 熊代 俊次郎
 雄波 金五郎
 森安 興五郎
 水島 壽一郎
 木村 鑄
 工

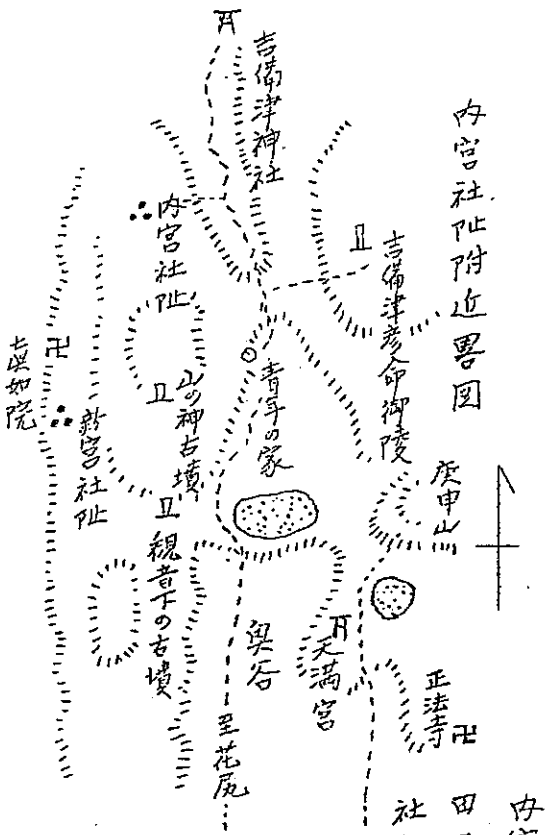
とあり。この宮を中心にして小地域ではあるが、自然の景観に富み山林の美を備えて、
 いるので、有志者が部落的に保存し村民の安息所にしたものであるが、現在では荒れ放
 題である。この天満宮を今更中堂へ至る山道の池のほとりは庚申山の青巒を背景にして
 悠遠清雅な地域である。再び有志の人々によつて風致保存に努めたいものである。

○ 内宮社址

西花尻の奥谷から北へのぼりつめた所の吉備町と高松町の境に岡山辰吉備青年の家があ
 る。ここから谷川に沿うて吉備津神社へ下る左手の尾根に松樹の繁茂している森がみえ
 る。これが内宮社址で考道からわかれて細道を辿ると二百米ほどで達する。いま一両半
 の小堂がありその傍の雑草中に高さ一〇程十五程角の石標に「吉備津神社内宮社

舊趾(社)「明治四十二年三月十六日 幸宮社 合祀」と刻んである。

○ 内宮社址附近畧図



内宮社というは吉備津考命の妃、大井百
 田子天姫命の鎮座地である。東山の新宮
 社の祭神吉備武考命と共に、明治四十三
 年其筋の命によつて吉備津神社幸宮
 社に合祀され、いまはその旧跡を止
 めるだけである。

吉備津考神の陵墓は現在茶臼山に歴
 然として祀られてゐるが、妃に對し
 ての御墓は未だ確定されいてない。

或は東花尻の前方後円式の天神山の
 古墳を候補地にあげるとあり、また内宮社址から西へ下つた所に畑地がある。東
 山の有松氏の所有地であるが昔から果樹を植えても生育しない一畝がある。昔破壊され
 た古墳のあとらしくこれ候補地にあげられるが考証のない限り断定はし難い。

○ 藪崎神社

当社は延喜地中に鎮座する部落の凶神である。足守川の東が吉備町と岡山市との境
 につくる所の田圃のなかにある。お寺から短かい石段を降りると両側に石灯籠がある。
 銘に「文政五年壬午九月吉日 安田正茂」とある奉獻である。安田氏が如何なる人か知
 らない。藪崎神社の懸額のある高さニ七九程、八幡造の石葺表を潜り、杉並木をカレ産
 むと両側に花崗岩造りの唐獅子がある。台石に「寄附者 延喜 岡崎善十郎」と刻んで

正、直、明。これが神道の生命である。仏教は西紀前五世紀に印度の釈迦牟尼の説いた哲學的宗教を崇敬するのであるが、その經典は後代の時代にその弟子たちによつて此れに作りあげられたものを信仰するのである。これが宗派である。祖先を崇拝するとか親を大切にするとつうことは極めて自然な日本民族の情である。氏神はその地方の祖先を祭祀してゐる。これを村の地藏尊と同じように律することは無理ではないが、占領下から解放された時に、神道を宗教法人法によつてしぼられたのは、やはり失敗ではなかつたかと思ふ。と熱田神官の長尾宮司は語つてゐる。

（鎗馬に懇願してある時々歳の本懐といふは天正十年六月（一五八三）高松城水攻の戦いが終つた翌十一月の一月、羽柴秀吉が同じ織田信長の部将で越前國（福井県）の大名であつた駿將の淵である柴田勝家の軍勢と戦つて（滋賀県）を退かした。これを撃破した戦いである。この時秀吉の子飼ひの腹心加藤清正・福島正則・加藤嘉明・手野長泰・脇坂安治・片桐且元・榑屋武則の七人が槍を振つて突進し戦況を有利に導いた合戦である。これは全国的に有名なものであるが、御土にもこうした話がある。それは天正九年の四月、備前の大宇守喜多氏の軍勢が安芸國（広島県）の毛利氏の攻撃軍と児島の八雲の戦つて武功をあらわした七人と蜂谷の七本槍といつてゐる。

これは宇喜多氏太郎基家の臣、戸川平右エ門（撫川領主戸川氏の先祖）馬場重介・能勢又五郎・國富源右エ門・與甘太郎兵衛・岸本惣太郎・小森三郎右エ門の七人である。戦いは不利にレテ宇喜多勢は敗れて退却したが、この七人は槍をかざして最後まで踏み止まり奮戦した勇士である。戦後毛利方から通知があつて始めにその功が判明したといふ。

大將宇喜多氏太郎基家は馬上から軍配を振つて敗走してくる將兵を指揮してゐたが、どこから飛んできたか流弾にあたりて討死した。その墓は戰場にあったと思ふ。白根の楠の北麓にある。いまは其太郎様といつて神に祭り北郷者の絶えることがない。福田村坪井の旧家吉田氏の山中に一小祠がある。祭神は宇喜多氏太郎基家にレテ御本体は古い位牌が安置してある。思うに吉田氏の先祖が宇喜多氏の家臣であつたのではなかつたかと思はれる。（『戦国編 戦争篇 八雲の合戦の條参照』）（おわり）

ブリヂストンタイヤ総代理店
吉備商会
 吉備局電五五
 吉備町庭瀬本町停留所前
 タイヤ修理

御警礼衣裳 其他一切
中瀬貸衣裳店
 吉備町撫川新町
 吉備局電554番・有線7111番

○（年号の起源は紀元前百四十年に前漢の武帝が始めてつくつたもので、それ以来歴朝の君主が用いた。それが我國に伝つた。年号を改めることは帝王の代替りや、災害、瑞祥などの際に行はれた。中國では千五百余年を経て明朝の時代以後に一代一年号となり、清朝が滅亡して終止してしまつた。

、までは西暦を用いてゐるが、我國ではこれに倣つて明治以後は天皇一代一年号となつた。最も南北朝の時代には二つの年号を用いた異例もある。

今日歴史の研究をして中くには西暦を使うことが非常に便利である。